

令和4年10月26日（水）

【大宅地域課長代理】 定刻になりましたので、ただいまより令和4年度第2回住吉区防災専門会議を開催いたします。

本日もお忙しい中、会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

今回の会議、ちょっと皆さん、景色が違うということで、今までちょっと円状になってやっていたんですが、後にご紹介させていただきますが、コロナも落ち着いているので、グループディスカッションを行いたいと思います。

改めまして、本日の司会を務めさせていただきます地域課長代理の大宅と申します。よろしくをお願いします。

それでは、早速ですが、平澤区長よりご挨拶申し上げます。

【平澤区長】 皆さん、こんばんは。区長の平澤です。

平素より住吉区政にご理解、ご協力いただきまして、ありがとうございます。

司会からもありましたけども、今日はグループディスカッションということで、「女性の視点を踏まえた避難所運営について」ということで皆さんのご意見をいただきたいということで、こういった試みをさせていただいております。避難所の場所のあるところはある程度確保できるかと思うんですが、場所のない狭いところ、そういったところでもやはり女性の視点を入れて運営していく必要があるということで、場所が狭いのでできないということではなくて、何かこの場所で何とか工夫できないかという観点でいろいろご意見をいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【大宅地域課長代理】 ありがとうございます。

それでは、議事に入らせていただく前に、本日、住吉区役所の保健師も参加させていただいておりますので、趣旨も踏まえまして少し説明させていただきます。

【仲間保健福祉課主幹】 皆さん、こんにちは。住吉区保健福祉課で保健主幹をしております保健師の仲間といいます。よろしくお願いいたします。

日頃は私たち保健師は1階で仕事をさせていただいていまして、乳幼児健診とか、地域に出向いて百歳体操をして介護予防に努める取組などをさせていただいております。最近では新型コロナウイルス感染症の対応ももちろん行っていまして、感染症が流行したときに

は健康危機管理上の災害ということで、それが発生した際には保健師がその担当をさせていただくことになっています。

健康危機管理、災害と一緒に平時の備えが重要ということで、その対応力を強化するために、大阪市のほうではこの令和4年度から各区役所に健康危機管理を担当する保健師のほうを配置させていただいております。本日は、住吉区の健康危機管理を担当する保健師を紹介させていただきたいと思ひまして、参加をさせていただいております。

平時からの備えとして何をすべきか、まだまだ手探りの状況ですが、担当の宮原のほうからご挨拶と、この9月にちょっとした取り組みをさせていただいておりますので、簡単に報告をさせていただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

【宮原保健師】 住吉区保健福祉課で保健師をしております宮原と申します。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

資料で、一部ホッチキスどめと、別で写真が少し入った北地域包括支援センター圏域内介護支援専門員勉強会での取組についてというものを皆さんのテーブルに一部ずつ置かれていると思うんですが、そちらをご覧になられてご説明をさせていただきたいと思ひます。

9月26日に北地域包括支援センターの職員及び北地域包括支援センター圏域内の介護支援専門員、ケアマネジャーになります、その方やサービス事業所の方と勉強会をさせていただきました。この勉強会は「なごミーティング」と呼ばれていまして、よりよい連携とお互いのスキルアップを目的に年3回開催されているもののうち1回になります。

今回の勉強会は、日常生活の中で支援が必要な高齢者にとって災害時の課題は何かというのを、高齢者支援の中心的な役割を担う介護保険事業に従事する専門職の方にヒントをもらいまして今後の取り組みにつなげていきたいという狙いがありました。防災に関連する勉強会になりますので、地域課の小林課長、次井係長にもご協力をいただきました。

当日は高齢者の災害時の困り事というテーマのもとに、保健福祉課保健師の進行によりグループワークをさせていただきました。4グループからの各意見としましては、避難行動、避難場所での不安、認知症・難聴などによる影響、医療的な問題などの意見が出ましたが、その中でも、避難所に行くためには協力者がいない、1人で避難できない、安心して避難所にいることができるか不安だという意見が全てのグループから出ているような状況でした。今回の勉強会を通じて学んだことですが、全てのグループから出た意見というものは優先する課題なのではないかと考えています。

グループワークの後には、地域課の次井係長から防災の現状についての取り組みについ

て講話をしていただきました。災害時の課題を考えていただいた後に聞く話でしたので、より現実として考える機会になったのではないかと考えています。

今後、地域との関わりの中で健康危機管理の課題を捉えて、平時からの取り組みを考えていきたいと思っております。

報告は以上になります。ありがとうございました。

【大宅地域課長代理】 ありがとうございます。

こういった区役所の中でも専門職の皆さんのご協力ということで、平時であっても災害が起こったときでも区民の方のために少しでも役立つという意味からも、こういう会議にも参加していただいて、意見なり、また、それに対する疑問なりを答えていただくというのはありがたいことと思いますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、会議を始めます前に、議事録の作成の関係上、ご発言いただくときにはまた、すみませんが、お名前を名のっていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

あと、この後は、今回、グループディスカッションを先ほどから申しあげているんですが行ふ予定となっておりますので、忌憚のないご意見をいただきたいと思ひますので、改めてよろしくお願ひいたします。

それでは、ただいまより議事進行を生田先生にお願ひしたいと思ひます。先生、よろしくお願ひします。

【生田委員長】 大阪公立大学の生田です。よろしくお願ひいたします。

本日は後ほどディスカッションを予定していますので、報告事項の1と2をまとめて事務局から報告の上、質疑の時間を設けたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、報告事項の1と2について、事務局から報告をお願いします。

【大宅地域課長代理】 改めまして、住吉区役所地域課長代理の大宅です。座ったままで失礼します。

私からは、報告の1、令和4年度第1回住吉区防災専門会議での意見に対する対応方針ということで説明させていただきます。

まず、番号1、畑委員からのご意見で、救急セットについてということで、中に何が入っているか分かるように型番を記載しておいたほうがいいと思ひますよというご意見でしたが。

1枚めくっていただきましたら、救急セット内の物品リストというのをつけさせていただきます。ここに大体どんなものが入っているかというのを救急セット内にこれも入

れさせていただいて、ご活用いただけたらと思います。これを買わせていただきまして、今、私の後ろのほうで示しているものです。これ、意外と、かばん代も含めて2万円ぐらいするらしいんですがね。半分ぐらいはかばん代という話なんです。今まで硬い木の箱だったんですが、これでしたら持ち運びも含めていろんなものを入れられるかなということで。先生、どうでしょうかね。何か。ありがとうございます。

次、2番目のご意見としまして、篠原委員と松岡委員からいただきました避難所における配慮についてということで、女性の視点はもちろんですが、トランスジェンダーの方など様々なニーズがあると思います。今後そういう議論を少しでもすることで、お互いに配慮し合える視点を築くことができるのではというご意見をいただきました。

対応方針としましては、避難所において様々な配慮が必要であるということは認識しております。今年度は特に、今回のディスカッションもそうなんです、「女性の視点を踏まえた避難所運営」を重点的に検討していきたいと考えております。ニーズの存在や対応方針を議論するなど、そういうことから始めさせていただくよう、本年度、各地域の11月12日に開催する防災訓練におきまして、「女性の視点を踏まえた避難所運営」を行うための意見交換を行ってまいります。

本日も後ほどグループディスカッションにおいて意見交換を行いたいと考えておりますので、今後とも、女性の視点のみではなく、様々なニーズを考慮した同様の取組をやっていこうと思っておりますので、よろしくお願いします。

私からは以上になります。

【小林地域課長】　　続きます、地域課長の小林です。

資料2をご覧ください。私のほうからは、第1回区政会議における防災に関する意見要旨の説明でございます。

真ん中あたりをご覧ください。

区全体の被害であったり、台風や水害のように予測できる災害についての対応はすごく深められてきていると思いますが、部分的に停電が起こったり、ちょっと大きな火災があったときの対応がまだまだ手薄ではないかというご意見をいただいております。そういった小さな災害にも目を向けてプランを立ててほしいというご意見です。ちょうどこのときに長居の地域で大きな火災がありましたので、こういう意見を頂戴しておるところでございます。

対応方針といたしまして、火災発生の際は、今日も池田司令に来ていただいておりますけ

れども、消防署のほうから連絡を受けて、防災担当のほうが現地へ駆けつけさせていただきます。地域の方々へ避難所として会館を開設してほしい旨、連絡をさせていただき、被災者が避難生活を送るに当たって必要な物資、毛布とか水とか、そういったものを防災担当のほうから配備させていただいております。

地域の方々も非常に協力的でございまして、町会長さんや女性部長さんを中心に動いていただいております。今後も各地域や町会とも連携が取れるように努めてまいりたいと考えております。

以上です。

【生田委員長】 では、これらの報告について、ご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、次に進みたいと思います。

それでは、議題の1、令和4年度住吉区総合防災訓練の実施について、事務局から報告をお願いします。

【次井地域課防災担当係長】 地域課防災担当係長、次井でございます。私から、資料3の令和4年度住吉区総合防災訓練についてご説明させていただきます。

まず、概要ですが、災害時における新型コロナウイルス感染症対策を考慮しつつ、各地域が迅速かつ円滑な避難所の開設・運営が行えるように、地域の総合的な防災力の向上をめざします。令和4年度は3年ぶりに一般区民も参加する総合防災訓練を実施させていただきます。

実施内容等につきまして、日時は令和4年11月12日土曜日の9時から12時で、実施場所は区内災害時避難所、各町会一時避難場所、住吉区役所ほかとなります。

訓練想定は震度6強の直下型地震発生で、参加者は、昨年までの参加者に加えまして一般区民も参加対象とし、コロナ禍前の規模で実施予定でございます。

訓練内容としましては、昨年度の内容に加えまして、一番下なんですけれども、重点項目として、新たに女性の視点を踏まえた避難所運営訓練を実施していただくように、地域の方へお願いしております。

裏面に続きます。

各関係機関等との連携訓練の内容としまして、大阪急性期・総合医療センターのほうには区災害対策本部の運営補助という形でご参加いただき、福祉避難所、住吉区医師会、住吉区歯科医師会、住吉区薬剤師会、訪問看護ステーションのほうにつきましては、災害時

情報クラウド型情報システムの i i s u m i による情報伝達訓練を実施していただきます。

消防庁からは、災害伝承10年プロジェクトとしまして、東日本大震災の被災地で活動された仙台市職員の方にお越しいただきまして、区民センター小ホールにて経験された内容を、区役所職員34名、直近参集職員は23名ということで、約60名程度の職員にお話をしていただくことになっております。

続きまして、住吉区社会福祉協議会につきましては、訓練の後の午後、災害ボランティアセンターの運営訓練を実施していただきます。

大阪市環境局におきましては、太陽光発電設備の説明を長居小学校で実施いただきます。昨年は荻田南小学校で実施いただきました。委員の皆様、毎年訓練参加及びご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

訓練の周知につきましては、「広報すみよし」11月号やホームページ、町会のほうにはポスター・チラシを各町会掲示板、班回覧等によりまして、区全体のポスター・チラシにつきましては小学校や区広報掲示板などへ掲示しています。

あと、その下なんですけど、当日には、次の①、②の内容を防災スピーカーより放送させていただきます。

続きまして、災害時避難所開設箇所を次のページの別紙1のほうに一覧にさせていただいておりまして、開設する避難所と、その避難所での訓練をする地域の方だけでとか、地域の方と職員、職員のみという形で一覧にさせていただいたものでございます。

めくっていただいて裏面のほうをご覧ください。

こちらは住吉区総合防災訓練に向けた説明会、模擬訓練等を実施させていただいたものと、今後予定しているものの一覧でございます。訓練内容等ですね。あとは、ちょっと備考の内容のほうにちょっとお示しさせていただいている内容でございます。

資料3につきましては以上でございます。

【生田委員長】 では、ただいまの報告について、ご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、議題の2、令和5年度防災の主な取組について、事務局から報告をお願いいたします。

【次井地域課防災担当係長】 地域課防災担当係長、次井でございます。

資料4をご覧くださいませでしょうか。令和5年度防災の主な取組についてご説明させていただきます。

災害時避難所への備蓄物資の充実ということで、受付用にオートディスプレイスタンドを新たに配備させていただこうと思っています。福祉避難室や乳幼児室につきましては、既に配備済みではあるんですが、LEDランタン、組立式簡易テント、折りたたみ式ベッドを追加で配備させていただく予定でございます。夜間照明等用としましては、カセットボンベ式発電機と投光機を追加で配備させていただいて、こちらを充実させることで防犯強化に努めてまいりたいと考えております。

別紙ですね。すみません、1枚めくっていただきましたら、今現在の災害時避難所備蓄物資の一覧をおつけしております。

こちらのほう、ちょっと内容も多いので、また後ほどご覧いただければと思いますが、さらにめくっていただきますと、別紙2のほうの7ページをご覧いただけますでしょうか。

こちらが別紙2のほうになっておりまして、今ご説明させていただいた物資の写真をおつけして、あと、配備予定のほうを確認いただけるように資料としておつけさせていただいております。

そしてまた1ページのほうにお戻りいただいてよろしいでしょうか。

先ほどの続きになるんですが、2番の災害時用タブレットの配備ということで、区災害対策本部と地域災害対策本部、避難所運営委員会の連絡通信ツール（i i s u m i）のほうとしまして、タブレットを配備してまいります。

令和4年度は区災害対策本部及び地域災害対策本部12か所分を購入しておりまして、こちらは合計しまして13台、令和5年度は地域災害対策本部を除く大空小学校、大領小学校の小学校2校と中学校8校、そちらと阪南高校を検討しておりまして、こちら、合計しますと11台になります。令和6年度につきましては、区の災害対策本部と区内全災害時避難所37か所で合計38か所になるんですけれども、先ほどご説明した24台を既に令和5年度で購入しておりますので、残りの14台について、令和6年度に購入予定を検討しております。

続きまして、3番の防災力向上に向けた研修会等の実施につきましては、防災士や防災の専門家を招き、防災リーダー研修や地域の防災学習会、職員の防災研修会などを行い、防災力向上を図ってまいります。毎年、防災士養成講座につきましては公立大学、防災リーダー研修につきましては住吉消防署にお世話になっております。ありがとうございます。

4番の水害時の避難場所や避難行動の目安等の周知・啓発につきましては、水害時に取るべき行動をはじめとした災害情報につきまして印刷物を作成し、全戸配布を検討してまいります。「広報すみよし」の1面と見開き面に防災特集（保存版）を毎年6月号に掲載さ

せていただいております。「大和川氾濫等の水害に備えた防災力強化アクションプラン（第2期）」に基づき、取り組みを行ってまいりたいと思っています。

続きまして、5番の住吉区総合防災訓練の実施につきましては、先ほどもちよっとご説明した内容なのですが、令和4年度に実施する総合防災訓練の結果を踏まえまして、女性や感染症対策を考慮した避難所運営について検証し、今後の防災事業に反映してまいりたいと考えております。

めくっていただいて裏面のほうですが、6番の福祉避難所等の開設運営訓練の実施というところで、福祉避難所の開設運営動画を全施設に連携し、開設運営訓練の支援を行ってまいりたいと考えておまして、こちらは10月8日と18日にライフサポート協会の皆様にご協力いただき、撮影することができました。松岡委員、ありがとうございました。

7番の避難所開設マニュアル等の充実につきましては、避難所開設マニュアルや避難所開設セットを地域と共に精査しブラッシュアップすることで、災害発生時にスムーズに避難所開設ができるようにしてまいります。

8番は、地域見守り支援事業ですが、こちらは平成26年度より取り組んでいる地域見守り支援システムの構築について、引き続き、住吉区社会福祉協議会と連携しながら、全地域での支援事務所開設及び見守り体制の構築、個別支援プランの作成に向けて支援してまいります。

令和3年5月の災害対策基本法等の改正によりまして、概ね5年（令和8年度）をめどに、個別避難計画、住吉区では個別支援プランと呼んでいるんですけども、こちらを完成させる必要があることから、引き続き各地域に対して説明を実施しながら確実に進めてまいりたいと考えておまして、令和5年度末作成目標は50%とさせていただいております。

資料4のほうにつきましては以上の説明でございます。

あと、9ページをご覧くださいよろしいでしょうか。

こちらは事前にいただいたご意見に対する対応方針としまして、畑委員のほうからいただきましたご意見で、備蓄物資一覧についてですが、有効期限があるものはその記載があるほうがよいとのご意見につきましては、対応方針としまして、現在は食料についてのみ有効期限を記載しておりますが、その他の物資についても、有効期限があるものについては記載を行ってまいりたいと考えております。

続きまして、同じく畑委員からですが、避難所への災害時の浸水想定水位の明示につい

て、大和川の氾濫や南海トラフ地震の際に想定される浸水水位について、ステッカー等で避難所内に明示するとよいと思うというご意見につきましては、災害時避難所前の、今、こちらに掲げておりますこちらのほうなんですけれども、こちらのほうの表示盤の左下のほうに、その避難所における大和川氾濫時の浸水想定深をイメージ写真とともに掲示させていただいております。

私のほうからは以上でございます。

【生田委員長】 ありがとうございます。

では、ただいまの報告について、ご質問等ございますでしょうか。

では、畑委員、お願いいたします。

【畑委員】 医師会の畑です。

先ほどの有効期限のどこなんですけど、電池もやっぱり切れるので定期的に替えて、それで、あと、そのときにちゃんと動くかどうかのチェックもしておかないと、パルスオキシメーターも何か気がついたら電池が駄目だったとか、液漏れとかしたら、もうせっかくの機械も壊れますので、ちょっと期限を決めて定期的に替えられるのがいいかなと思います。

あと、今のあの表示が僕はよく分かるのかどうかちょっと心配であるんですけども。ちょっと遠いから見えなかったの。そこの矢印のところまで水が来ますというのをちゃんと避難所で書いて飾っていただけということなんですよね。それなら分かると思います。

もう1点なんですけど、先ほど訓練のところにもちらっとあったんですが、急性期・総合医療センターというのは、病院の中でもすごく大阪府でも基幹となる、すごく設備とか、あと訓練も行き届いた病院が幸いに住吉区にあります。訓練のときにちょっとこちらへ来て助けてもらうという話もあるんですが、もし1回、病院の中でもすごい訓練を1年に1回やっていますので、もし役所の人が見学したいとか参加したいというのがあれば、また交渉しに行きますので、またご検討いただくとね。大体あんなところ、何をやっているかというのを分かっておくと、またすごく役に立つんじゃないかなと思いますので、またご検討よろしく申し上げます。

以上です。

【次井地域課防災担当係長】 畑委員、ありがとうございます。地域課防災担当係長の次井でございます。

電池のほうの内容につきましては、備蓄物資のほう、搬入の際や備蓄倉庫に行かせてい

ただ、機会の折にその都度ちょっと確認させていただいて、いつ避難所開設となってもいような形でも対応できるような内容で確認のほうは小まめにさせていただきたいと思っております。

先ほどおっしゃっていただいた2番目の急性期・総合医療センターのほうの訓練のほうですが、そちらのほうにつきましてもぜひ参加させていただきたいと思っておりますので、また詳細な内容をちょっと教えていただければと。ぜひ参加したいと思っております。よろしくお願ひしたいと思ひます。

【畑委員】 タブレットを配るということで、それはすばらしい考えだと思ひます。何か苦勞して動画も作られたと聞いたので、せっかくタブレットを配るので、動画のデータとか、あと、マニュアルのデータとか、その辺もタブレットに入れておかれると、また有意義かなと思ひます。またご検討ください。

【小林地域課長】 地域課長の小林です。ご意見ありがとうございます。

タブレットを配備させていただいたというのは、LINEを活用して写真とかを本部のほうに送ってもらうような訓練もさせていただいていますし、今現在、大阪市の防災情報システムのほう、そちらのほうも写真を撮ったり避難所の情報とか、こちらに向かってくる職員が自分の携帯で写真を撮って、道路の陥没状況とかそういったものも送れるというような取り組みも行っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。

【生田委員長】 ありがとうございます。

ほかにかがでしょうか。

篠原委員、お願ひします。

【篠原委員】 篠原です。よろしくお願ひします。

備蓄物資の件なんですけども、昨年の総合防災訓練の際に、備蓄物資の中から要る物を取り出すのがすごく大變で、どこに何があるのか全然分からなかったということがありましたので、せっかくの訓練の機会なので、その一覧表と、どこにあるのかという何かチェックをする機会が、それぞれの地域の話だと思ひますけども、できればいいのかなと。そこで整理ができてい、できていないというチェックもできると思ひますので、せっかくいい物がたくさんあるのに、何がどこにあるか分からないという状況があったりとか。誰でも分かるように、せっかく集まる機会だと思ひますので、それができればいいのかなと思ひましたので、ぜひよろしくお願ひします。

あと、訓練の話に戻ってしまつて申し訳ないんですけども、災害ボランティアセンター

の運営訓練が今年は午後にあるということで、毎年ちょっと同じ時間だったので、せっかく両方行きたいなと思っても行けなかったんですけども、今年は午後から災害ボランティアセンターの運営訓練があるので、それはすごくよかったなと思って。ボランティアセンターの設立は多分発災直後すぐというわけじゃないので、時間差があることだと思うので、時間を分けてされるのはすごくいいことだと思います。ありがとうございます。よろしくをお願いします。

【次井地域課防災担当係長】 地域課防災担当係長、次井でございます。

まず最初に、備蓄物資の整理のほうなんですけれども、備蓄倉庫のほうにリストをお作りして、どの倉庫にどんな物品が入っているか、物資が入っているかというところは明示させていただいているんですけども、ただ、おっしゃっていただいているように、私も各地域のほう、担当地域に行かせていただいて、地域によって整理ができていたり、できてないところも確かにございます。地域の方と一緒に整理をさせていただきたいというところと、あとは、例えばなんですけど、テントとかそういったものであれば、お写真を袋のほうとか段ボールのほうにおつけしてとか、開けずとも見ていただきやすいような形の対応はまずさせていただいていますが、なおちょっとまだ整理がちょっとできてないというところもご指摘は確かにあるので、今後、そちらのほうを地域の方と一緒に整理のほうをさせていただいて、ちょっと改善を図ってまいりたいと考えております。

2つ目のボランティアセンターのほうの訓練なんですけれども、昨年度はちょっと私のほう、ボランティアセンターのほうの訓練には、参加をさせていただけなかったんですけども、今年度はボランティアセンターのほうの訓練にも私も参加させていただきまして、内容を見させていただいて、実際の災害時にどういった形で対応させていただくのがいいのかというところで、よりよいボランティアセンターの内容と一緒に考えてさせていただきたいと思っております。

私からは以上でございます。

【生田委員長】 ありがとうございます。

では、その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、次は、グループディスカッションに入ります。

グループディスカッションの流れについて、事務局から説明をお願いいたします。

【大宅地域課長代理】 改めまして、地域課長代理の大宅です。

それでは、グループディスカッションについてということで、資料5をご覧ください。

今日のテーマとしましては、先ほどから申しあげているとおり、「女性の視点を踏まえた避難所運営について」ということで、ちょっとそのなぜということを書かせていただいています。

災害は、自然要因と社会要因により、その被害の大きさが決まってくると考えられています。社会要因による災害時の困難を最小限にすることが重要ということが課題となっております。これまでの災害におきましても、様々な意思決定過程への女性の参画が十分に確保されず、女性と男性のニーズの違いなどが配慮されていなかったことや、犯罪上の課題が生じてきました。

こういった観点から、住吉区におきましても、女性の視点を踏まえた避難所運営を重点項目としており、皆様に議論いただいたイメージ、アイデアを基に今後の事業に生かしてまいりたいと考えており、今日のディスカッションを設定させていただきました。

それでは、ちょっとグループディスカッションの方法というんですか、ルールというのをご説明させていただきます。

ここにも書いてあるんですが、各グループに防災専門会議員と職員、合計9名で行わせていただきます。各グループのファシリテーター及び書記は職員がやらせていただきます。発表は専門会議委員の中から決めていただきたいと思います。

2つの議題がありますので、1つずつそれぞれ委員の方に、ということは2名の委員の方に説明をしていただけたらと思っております。1つ目は、「女性の視点を踏まえた避難所運営」について大事だと思うことについてお話しいただきたいと思います。2つ目は、実際の避難所の図面を見ながら、どのように対応していったらいいかということをご議論いただきたいと思います。

まず、「女性の視点を踏まえた避難所運営」につきまして大事だと思うことにつきまして、皆さんのお手元に付箋をちょっと置かせていただいているんですが、大体3つぐらい、こういうことが大事だよということを書いていただくのと、なぜ大事かと思ったことを簡単にその付箋の中で書いたら、それも書いていただけたらと思っております。その後、私どもの進行によりましてご意見を述べていただきたいと思います。

次、専門会議委員、職員に関わらずグループ内で一緒に意見交換をしていただき、ご意見等は実現性の有無に関わらず自由な視点でご発言いただきたいと思います。ただ、限ら

れた時間ですので、より多くの方にお考えを述べていただけるほうがありがたいということで、お一人お一人の意見については、申し訳ありませんが簡潔に述べていただけたらと思っております。ただし、他のご意見の否定的とか批判的なご発言と、職員への質問の場ではちょっとないので、そういう質問はちょっと控えていただいて、前向きにどんどん進めていけたらと思っておりますので、ご協力いただきたいと思います。

書記役の職員は、発言されたご意見をこれも簡潔に記録させていただこうと思っております。

ディスカッションごとに発表役、先ほど申しあげた2名の方にやっていただいた上で、内容につきましては3分程度で発表していただいて、その後、生田先生のほうからちょっと総論みたいな形で付け加えていただけたらと思っておりますので。

そういう形で、大体終わるのは9時前ぐらいを予定しておりますが、今までよりもちょっと時間がかかるかなと思っておりますが、円滑な運営にご協力いただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

あと、傍聴席の方も、どんな話をしているのかということで、それぞれちょっと椅子を設けておりますので、ご興味のあるところ、後ろに。ちょっとご発言いただくことはできないんですが、聞いていただくことはできますので、ご自由に入っていただけたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上です。

【事務局】 地域課の黒田と申します。私はタイムキーパーのほうをさせていただきたいと思っております。

それでは、これからグループディスカッションを始めます。

まずは、先ほど申しましたとおり、「女性の視点を踏まえた避難所運営」について大事だということについて、ファシリテーターの進行により意見交換を行ってください。時間は30分設けさせていただきます。私の時計で今7時10分なので、7時40分までさせていただきます。時間の5分前になりましたらお声がけしますので、発表に向けたまとめのほうをよろしく願いします。

それでは、始めてください。よろしく願いします。

(グループディスカッション)

【事務局】 お待たせしました。Bグループもまとめが終わりましたので。少々お待ちください。

それでは、各グループから意見交換した内容についての発表をお願いします。

それでは、まず、Aグループからよろしくお願いします。

【石橋委員】 Aグループ代表で発表させていただきます石橋です。よろしくお願いします。

まず最初に、組織運営というところでは、女性をその運営の中に入れていくというところで、目標としては男女比率50%なんですけど、まずは、30%以上はそういう男女の比率というところでは、運営のほうで女性も入っていくというようなところをめざしていけたらなというのと、あとは、やっぱりいろんな世代の女性でも、なかなか難しいかもしれないんですけどいろんな世代の人に関わってもらう、運営のところに入ってってもらおうというところ、あともう1つは、何か炊き出しとか掃除とかというのはやっぱり女性の役割だみたいな、こういうふうな考えってなりやすいんですけど、それがもう女性の役割だというふうなことには決めつけないというところでは、平等な形で役割をしっかりと明確にしていくというふうなところが大事かなというところでは、

あとは、スペースとしては、授乳スペースであったりだとか、女性の専用の更衣室であったりだとか、あとは、洗濯物の干すところの場所であるとか、そういったところのスペースを確保できる。子どもがしっかり安心して過ごせるようなスペースだったりだとか、とにかく安心できるスペースを確保することというのはすごく大事じゃないかなということでは、

あとは、トイレのほうも、まずはもう男女別でトイレのエリアを設けて、分けてやるということと、それから、そのトイレの比率というのも、男性1で女性が3ぐらいがいいんじゃないかなと、そういうふうな形で男女分かれてのトイレについても考えていくことが大事かなと。あとは、子どもも一緒に使用できるような配慮であるとか、もちろんその暗いところではなくて、場所についてもエリアを分けるんですけど、場所についても明るいところというふうなところの配慮というのは必要かなというところでは、

あとは、防犯についても、警備であったりとか、夜警なんかもちよっと必要かなと。その中でも女性に入ってもらって、それも安心できるような体制というのをつくっておくのが大切かなということと。

あとは、物資についても、女性のための、いうたら生理用品であるとか、あとは、子どもでも大人でもおむつの必要性というのもありますので、そういった物資についてであったりとか、そういった女性専用の物資については女性の担当の人に配ってもらうこととい

うのも大事だし、そういったごみが出たときに中身が見えないような黒いごみ袋なんかも配置しておくことというのは大事かなというところです。

あとは、相談しやすい部分というところでは、誰に何のことを相談したらいいかというのが分かりやすくしておくということも大事ですし、言いやすい環境というのをつくっておくというのが必要かなということです。あとは、やっぱり特殊な相談というか、DVというような、それで避難されてきた方というの中にはいらっしゃるかもしれないので、そういった方なんかは受付の時点で聞いておいて、そこが相談しやすいような配慮というところにつなげていくということが大事かなという意見が出ました。

総まとめなんですけど、まず、こういうことをやるというのはすごく大事なことですけど、初期対応ではこういうのはやっぱりなかなか難しいのと違うかな。やっぱり人がたくさんいたりとかということではそういうご意見もいただいたんですけど。でも、こういったところを大切に作る避難所をつくっていくということを意識するだけでも違うのかなというところをしっかりと頭に置きながら、総まとめとしては、発想の転換で、性別による配慮は当たり前だというような、そういう意識というのを持って避難所運営をするというのが大切かなというふうにグループはまとめました。

以上です。(拍手)

【事務局】 ありがとうございます。

それでは、続きまして、Bグループの発表、よろしくお願いします。

【松尾会員】 松岡です。

ほとんど同じだったので、同じだったところは割愛します。

スペースのところですね。専用スペースと共有スペースをつくるということが大きな配慮の全体のところで出しました。あと、女性同士で雑談できる場所の確保というので、平日日中におられる方が女性の利用される割合が多くなるだろうから、そういう場所の設定というのは出ていました。あと、男女だけが今はもうジェンダーではないので、いろんなトランスジェンダーの方が使えるような、男女以外、それだけの二択じゃないようなスペースの設定も必要かなと。あと、時間で設定を変えるとか、同じ空間を共有しながら時間で分けるということも1つ案として出ていました。

あと、防犯ですね。避難所の中での性被害というところもやはり起こり得るということをも前提にして、明るさの確保、ルールづくり。見回りの設定のときに男女ペアで回るのも1ついいよということと、プライバシーを尊重し過ぎると死角ができてしまうので、その

あたりは配慮をして設定をすることと、防犯カメラの設置ということも出ていました。

あと、人材ですね。そちらでも出ていたと思うんですが、女性の相談員の配置で、男性、女性、ジェンダー同数の人材確保というところも出ていました。あと、おっしゃっていたように役割分担の固定概念を避けて、みんなで、性別で役割を分けずに、みんなのできる形をという意見も出ました。

あと、物資ですけれども、身体的特徴として女性特有の生理であったり授乳であったりというところの部分で必要な物資に関しては、アレルギー対応も含めて避難所で全てを準備することは不可能だと思います。おむつにしてもサイズがたくさんありますので、基本はもうそれは自助でやるべきだろうと。それを持って避難してくるのはもう大前提かなという考え方でした。

大前提として、誰一人取りこぼさないあらゆる視点でできる配慮を考えればというような意見でした。

以上です。(拍手)

【事務局】 ありがとうございます。

ここで、両グループに発表していただいた内容について、何かご感想等ある方、いらっしやいますでしょうか。

【篠原委員】 篠原です。

先ほどちょっと私すっかり忘れていた、言い忘れたというか、書き忘れたんですけど。配慮とか平等という中に何か選択肢があるというのがすごく大事というのを、この間すごく勉強してなるほどと思ったのに、さっき書き忘れたので。もちろん配慮をするために、女性とか弱い立場の方を配慮することも大事なんですけども、その方にとって何がすごく大事かというのをやっぱり選べる選択肢があるということなんじゃないかなと思いましたので、すみません、ちょっと付け加えさせていただきます。お願いします。

【事務局】 ありがとうございます。

ほか、何かご感想等ありませんでしょうか。

原田委員、お願いします。

【原田委員】 原田です。

今いろいろとやったんですが、実際に、私、それから清水丘の小林さんが先頭になって、これ、避難所開設の責任者なんですよ。そうすると、今おっしゃっているのはもう頭の中で分かるんですが、場所がもう無限にないと駄目かなと。学校で使わせていただける場

所とかを考えたときに、じゃ、干し物をどこでやるんだと。屋上、皆さん、4階まで、そんな上がるのしんどいわと言われるだろうなとか。

いろんな面ですごく参考になることは、私のところの地域でもこの女性部長の人に皆お願いしてアンケートを取ってもらったんです。女性の目線ではどんなのがあるのかなと。私はできるだけ気遣うようにはしているんですけども、実際目に見えないというか。哺乳瓶を洗うのに煮沸しないといけないんだと。そんなところ、こっちは分からないので、じゃ、鍋が要るじゃないかとか。いろんなことでまだまだ細かいこと、たくさんあると思うんです。ですけど、できるだけ配慮できる範囲のことは極力やっていきたいなというふうには思っていますが、なかなかそれも難しいなと。

女性の方、半分ぐらい入れてくださいということなんですけども、実際、年齢別ということになってくると、20代、30代、40代、そこら辺はほとんどいないんです。役をやっているのは50、60です。70もいます。私なんか80ですけど。もうそのぐらいのもう年寄りがほとんどやっているような状態なのでね。

ですから、そこら辺のところも、できるだけこの避難してきた中で、フリーでおられそうとか、子どもももう大きくなっているとか、そういう方に協力をさせていただくというような形を取って、できるだけ皆さんに協力をお願いするというのを。メインは一応防災リーダーと、それから町会長、それから女性部長、この辺のところが皆動いているわけなんですけども、もちろん受付とかそういうのも女性部長の方々にお願いするようにはできていますが、相談役をつくって、その中から1人相談役に回ってもらおうとかいうようなことはすぐにできると思うんですけども、参考にさせていただくということでは結構ためになりましたので、ありがとうございました。

【事務局】 ありがとうございます。

ほかは何かご感想ある方、いらっしゃいませんか。

それでは、生田先生、すみません、両グループの発表を聞いていただいて何かご感想をよろしくをお願いします。

【生田委員長】 活発なご議論ありがとうございました。

スペースに関しては実は2つ目のテーマなんですよね。ということで、2つ目のテーマでより深く、限られた空間でどうスペースを入れていくかというところではご議論いただければいいのかなというふうに思いました。空間のつくり方、使い方もいろいろなアイデアがありまして、時間制にするとか、限られたスペースでどうやっていくかというのでは面

白いアイデアだなという気もしました。

あと、組織のところですね。参加してもらう、それか参画ですね。もう企画段階から関わっていただくとかいうところで女性の方がどう入っていったかというのは、我々もちょっと調査したりはしていたんですが、防災は男性のものというような意識を持たれている方もやっぱり中にはいらっしゃるということもあります。確かに救助であったり消火であったりというところは、なかなか男性のほうが主な役割というのも否めないところもあるのかもしれないんですが、この避難所に関しては、やはり女性の視点、参画・参加というのは一番入っていただきやすいし、課題もある意味分かりやすいと思いますので、ぜひとも、目標パーセントまで設けるというのもすばらしいと思いますので、進めていただければというふうに思います。

そして、やはりどちらのチームでも防犯の話題が多数出てきました。防犯に関しても、ふだんの日常の防犯活動と同じく、やるべきことというのはほとんど皆さんご理解いただいていると思いますので、そこをやっぱりきちんと避難所でもやってもらい、あとは、防犯を避難所でやっていますよというのをいかにして避難者あるいは支援者、皆さんに伝えるかというところがやっぱり大事なかなと思います。実際、熊本地震等でもそういうチラシが避難所で配られていたわけですよ。ですので、防犯というものも、トイレとかスペースの問題もありますけど、とにかく徹底するというのもう共通認識だなというふうに思いました。

プライバシーと防犯の関係なんていうのもありまして、アメリカなんかに行きますと、トイレがびっくりするぐらい下が空いていたりとかありますよね。何かスペースが空いていたり。それはプライバシーと防犯のバランスを取ってやや防犯寄りになっている、アメリカ、海外ではというのがありますので、その意識に関しても避難者の方に持っていたきたいなと思います。

防犯の延長かもしれませんが、やはりDVというものは本当にシビアな問題で、場合によっては命に関わることもありますので。DVの問題って多分ふだんなかなか意識することもない方も多いと思うんですが、かなりシビアな問題になります。これも実際の災害のところでも、そのDV被害に遭われている方向けの避難所とか、それも公になっていない、仮設住宅も含めてですけど、そういったものもちゃんと確保されたりしていましたので、そのあたりのDV対策というものもかなり意識を持っておいていただくというのが、命に関わる問題になる可能性もありますので、大事なかなという気もしました。

その他ですね。相談してもらおうようなところとかも、これもソフト対策で、そんなにすぐ広いスペースが要るわけでもありませんので、すぐにでもちょっとずつでもやっていただければいいかなというふうに思っています。

というところですかね。ちょっと簡単ですが、まとめになります。ありがとうございます。

【事務局】 ありがとうございます。

それでは、続きまして、2つ目のディスカッションのほうをさせていただきますので、少々準備しますのでお待ちください。

それでは、もう始めていただいています、時間を20分設けさせていただきます。今からちょっと22分ぐらいですけど、8時20分まで設けさせていただきます。また時間の5分前になりましたらお声がけしますので、発表に向けた取りまとめをお願いします。

それでは、よろしくをお願いします。

(グループディスカッション)

【事務局】 それでは、時間になりましたので。またちょっと発表の準備をさせていただきますので、少々お待ちください。

それでは、各グループから意見交換した内容について発表をお願いします。

次は、Bグループからよろしくお願いします。

【小林委員】 どうもすみません。小林といいます。

Bグループが考えた案といいますかね。まず、このように非常に狭い空間ですので、これをどういうふうに有効に使うかということでもまず始めました。

まず、ここのスペース、弓道場とか、あと、的場というのが、これ、多分屋外で、こっちが多分屋根はないだろうと。弓道場のところは、ひょっとしたら簡易の屋根があるだろうから、ここにもうテントを上げて、ここにすると。

全体的にこの2階のホールがあるんですけども、この使い方がちょっとなかなか難しく。簡易テントがありますよね、2メートル掛ける2メートルの。あれを真ん中にして、家族で避難されているはここへ入ってもらおうと。そして、こっち側は女性、こっち側は男性の単独の方に入ってもらって分離しようかということなんです。

それで、1階のとこなんですけども、トイレはもうここを使いましょうと。更衣室もそのまま使いましょうと。要支援者ですね。上へ上がるのでも、これ、階段しかないのもうここ、第2研修室、ここを要支援者のスペースにして、具合の悪い方はここに来ても

らう。そして、もう1つここ、第3の研修室で洋室ですけどもあるけども、ここはもう女性のみが入れる場所、授乳にしても何にしも女性のみが入れる場所、女性のフリースペースというふうにします。

それで、あと、ここのロビーですね。エントランスというか、ロビーですね。ここに相談室をパーティションか何かで、ブルーシートか何かで分けて、よろず相談室にしようかと。そうすれば、誰でも気軽にお話していただけるだろうということですね。

何せこのスペースがこれだけしかないので、ここの場合だけ、ここの場合だけね。これ、住吉大社のところにあるんですよね。この外、駐車場が有りのスペースありの、こっち側に田んぼが有りのとって広いスペースがあるので、そこをうまく活用できたら、ここは本当に相談とか、そういう物資の配給とかに重点して置けるんじゃないかと。どうしてもここでないと駄目な方もおられるので、そういうときはこういうところの場所を使う。そうすれば、ちょっと人が少なくても回せるんじゃないかというような話をしておりました。(拍手)

【事務局】 ありがとうございます。

それでは、Aグループ、よろしくお願いします。

【篠原委員】 篠原です。発表させていただきます。

先ほどおっしゃったのと同じく非常に狭いスペースなので、限られた方に優先のスペースとして使っていただくために、大前提として高齢の方や傷病者の方を優先のスペースにして、元気な方はちょっとほかの避難所へ回っていただくという大前提で、それにおいては、平時からここはそういうところですよというアナウンスをしておくというのがまず大前提で。

この中の使い方としましては、まず、こちらの剣道場、柔道場におきましては、ファミリー層、ファミリースペースとしてレジャーシートや段ボールなどで区切って、立っていたら中が見えるぐらいの高さで。ここのちょっと高さについてはいろんな意見が出たんですけども、160センチぐらいの仕切りをもってファミリースペースを設けるということで。

そのあと、ほかですね。この屋外になっています。B班と同じくこちらにテントを立ててそこを居住スペースにもできるのではないかと。こちらが例えば晴れていたら洗濯物を干せるスペースとして、あとは、子どもさんが遊べるスペースとして使えるのではないかとということになりました。

トイレにつきましては、この屋内のもともとトイレであったところに関しては女性専用

にして、男性のトイレは外に、屋外に別で簡易トイレを設置、そして、男性は外で、女性は中でというふうに分けました。

あと、更衣室につきましても、ここをどちらも女性専用にして、授乳室とかも含めて全てを女性専用にするということになりました。

あと、女性の専用の居住スペースとして、この第1研修室と第2研修室、和室になっているので、ここを使えばいいのではないかという意見が出ました。

あと、相談コーナーは、B班と同じくこのロビーに設けてはどうかという。非常にどんな方がどれくらい来られるかというので、本当にすごく難しい話だとは思いますが、一応A班が考えた意見は以上です。(拍手)

【事務局】 ありがとうございます。

ここで、両グループに発表していただいた内容について、何かご感想等ある方、いらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、生田先生、お聞きいただいて何かご感想等をよろしくお願いします。

【生田委員長】 2つ目の課題のほうも大変お疲れさまでした。

先ほど1つ目の課題でスペース関係が出てきたところに関して、漏れなく各班議論をされていて、何とか狭いながらも入れていただいたのかなというふうに思いました。

小さな避難所というものも私も幾つか見ましたが、そんなに悪くないというか、アットホームな空気もあったりして、やっぱり大型の避難所にはないよさもあったりしますので、確かに少し子育て世帯であったり同年代の同じような方に集まってもらうという使い方も、こういう小さな避難所ではできるのかなという気もしました。

あとは、やはりこの議論の延長線上で、完璧にやっぱり男女を分けていこうというような両班ともお話だったと思います。

ただ、実際いろいろ避難所を見たけど、やっぱりそこまで配慮されていたというのは今まであんまり見たことはないんですが、それを実際やってみても、本当にその女性の視点を入れまくった避難所というのが最終的にどうなるのかなというのは、ちょっと未知数なところもあるのかなという気はして、もう完全にぱっとやって、男性ばかり、女性ばかりというような避難所というのがどうなるのかなというのは、なかなかイメージがつかないところもありますので、やはり女性の視点を入れるということも考えつつ、やはり避難されてきた方が何とか頑張って生活再建、復興に向かっていけるような仕組みを何かつくっていくというのが一番の目的かなと思います。ある意味分断みたいになってしまうと、それ

もそれでまた変な話かなと思いますので、ちょっとこのあたり、慎重な議論が必要かなと思います。

ただ、今挙げられていたようなスペースの確保というのは、もうこれも最低限必要だと思いますので、あとは、運営のところで、組織づくりでカバーしていけるところはそれでカバーしていけばいいのかなというふうに思いました。

こっちのほうはもうやらないんですかね、結局、学校のほうは。

【事務局】 そうですね。ちょっと時間の都合上。こっちはある程度スペースがいっぱいあるようなところなので。

【生田委員長】 分かりました。各地域、あるいは皆さんのご所属のところで、こういった視点での避難所の配置というのもまたチャレンジしていただければ面白いかなというふうに思います。ありがとうございました。

【事務局】 ありがとうございました。

続きまして、今日は保健師として仲間主幹に来ていただいていますので、一言よろしくをお願いします。

【仲間保健福祉課主幹】 私がしゃべらせていただくのはとてもおこがましいんですが、実は私、自分の地域というか、近所には保健師ということを書いていませんので、公務員ですとは言っているんですけど、ずっと子どもが学校に行っているときとかでも公務員ですと言いながら、それ以上何も聞かれてないので医療職と言ってない。これ、ちょっと今日話合いをして、これ、変えないといけないなと思って。自分はちゃんと保健師で、何かあったときに、それこそ避難所で何か相談役ということが出来るんじゃないかということで、自助、共助というところでは自分で手を挙げていかないといけないなということをも感じたので、今日参加させていただいて本当によかったと思います。

保健師として1つだけちょっとお伝えさせていただきたいなと思うところは、実は今、宮原と一緒に、今年は避難所に行ったときに、やっぱり最初、自分で薬、日頃飲んでいるお薬は1週間分は確保して準備をしておきましょうというお話をさせていただいております。恐らく最初はとてもばたばた大変で、それこそ物資も来ない、その中で自分が毎日飲まないといけない薬がないということになるととても大変ですので、そのあたりの普及啓発をしておりますので、どうかそのあたりも皆さん一緒に協力していただけたらなと思います。

今日は本当にありがとうございました。

【事務局】 ありがとうございました。

これで防災ディスカッションのほうは終了させていただきます。

それでは、進行を生田先生にお返ししたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【生田委員長】 皆様、お疲れさまでした。まだまだ議論し尽くせないこともあろうかと思いますが、時間の関係もございますので終了とさせていただきたいと思います。

何かこれだけは言っておかねばということがございましたら、手を挙げていただければと思うんですが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

本日の振り返りなんですけど、前半のところでは、総合防災訓練の話であつたりとか防災の取り組みというところをご解説いただいています。総合防災訓練、まだあと2週間ほどですかね、迫ってきておりますので、特に今日ディスカッションしていただいたこの女性の視点というものを含めて、また各地域でいろいろとチャレンジしていただければというふうに思います。

最終的に女性の視点を入れたという文言が多分消えてくるのが一番の目標なのかなと思います。男女もう当たり前に共同でやっていくというところが一番大事だと思うんですが、現時点ではまだやはり女性の視点を入れるというスタンスを取らざるを得ないのかなというふうには思いますが、行く行くは本当に男女共同でというのが大事なかなと思います。

特に若い世代は本当に男女共同という意識がしみついている、我々はですね、というふうに思いますので。例えばさっきニュースで見たのでは、やはりその男子中高生が例えば生理用品について学ぶとか、そういうことは結構当たり前にやっていますし、我々でも中学校なんかで防災教育に行きますと、結構そういう話を普通に男子中高生、女子中高生がしゃべっているんですね。だから、それは何か我々世代よりもっと若い世代は進んでいますので、若い人の意見もぜひ今後聞いていっていただいて、入れていくべきなのかなと思いました。

あとは、やっぱりその男女をどんどん分け過ぎると、その間にいらっしゃるといいますかね、トランスジェンダーの方の立場というのが結構苦しくなってくるのかなとか、あるいは例えば外国人の方もいらっしゃって、じゃ、外国人の方はもうこちらで分けましょうとか、いろんな発想が出てくると思うんですね。つまり、その配慮するということも配慮し過ぎると、またそれはそれでご本人からするとちょっと肩身が狭いとかということも出てくるかなという気がしますので、本当に程よい距離感、配慮で、先ほどの選択肢が選べ

る。合理的配慮という言葉もありますけど、何かそういった自然な感じでうまくできると一番いいのかなというふうに思いました。

何よりもやっぱり平常時の取り組みが全て災害時にそのまま来ますので、避難所のことを考えるだけではなくて、平常時から男女の関係、どういう距離感を取っていくか、どういう役割分担するかということが一番大事なのかなというふうに、これは個人的な感想として思いました。ですので、ちょっと私のほうもいろいろこの男女の、女性の視点を入れた防災というものに少しがっつりと取り組んでいく予定になっておりますので、またいろいろとご助言いただければと思います。よろしく願いいたします。

委員の皆様、ありがとうございました。

それでは、最後に区長からお願いいたします。

【平澤区長】 今日、皆さん、長時間にわたりましていろいろご意見いただきまして、ありがとうございました。

今日はグループディスカッションということで、本当にいろんな意見を出していただいて、いろんな気づきがありました。男女共同でということ、若い世代なんか結構当たり前になってきているというふうな話もあり、やっぱり若い世代から高齢者までいろんな人の意見が要るなど。それも、女性の意見もそうですけれども、男性の意見というのも当然のことながら聞いていくと。やっぱり両面が要るのかなというふうに思いました。男女分け過ぎると、やっぱりそれはそれでまたちょっと居づらくなる人も出てくるということなので、配慮し過ぎてもよくないけども配慮も必要と。こういったバランスをどうやって取っていくかというのが、今日の議論で端緒といいますか、スタート地点に着けたのかなと思っております。

また、こういった気づきを我々もまた共有していきたいと思ったり、また、いろんな地域の防災訓練なんかでもこういった視点を入れながら、どういうことがいいのか試行錯誤していったらいいと、今すぐに答えは出ないのかなと思っておりますので、今日のこのディスカッションきっかけに、男女の共同でどうやって避難所運営していくかということについて、ちょっと議論をもっと深めていければいいのかなというふうに思っております。

今日のいただいた皆さんの意見なんかいろいろところでちょっと共有もしたいなと思っておりますので、またいろいろ思われることとか、あと、地域でいろんな世代の方のご意見なんか聞かれる機会もあるかと思っておりますので、そういったものをまた区役所のほうに還元していただいて、よりよい住吉区でのいいちゃんとした避難所運営をやっている

ように参考にさせていただきたいと思っております。

今日は本当にありがとうございました。

【大宅地域課長代理】 委員の皆さん、長い時間になりましたが、ありがとうございました。

今、いつもでしたら円卓で、ちょっとかしこまった形式張った話になるんですが、今日こうして久しぶりでなんですかね、初めてなのか、僕は初めてなんですけど、忌憚のない意見をこうして膝を交えて話できたということ自体がすごく中身があったのかなと思っています。

今、先生おっしゃったみたいに、男と女ということできっちり分けるんじゃなくて、程よい距離感、これは私ども職員と委員の皆さんとの距離感も、今までだったら、職員、委員の皆さんと分かれていたような気がするんですけど、このディスカッションで程よい距離感になればもっといいものができていくのかなと、ちょっと私個人的に思いましたので、このディスカッション、今日で終わるのではなくて、またこういう機会を設けさせていただいて、またこういうふだんの言葉で話ができる場というのがどれだけ大事かというのを実感しましたので、こういうこともまた今後取り入れていきながら、この防災専門会議がますます発展していくことを願っている次第でございます。すみません。

それでは、防災訓練、11月12日、改めて開催させていただきますけど、それぞれのお立場でまたご協力よろしく願いいたしたいと思えます。

次回の防災専門会議は、年が明けまして令和5年2月22日の水曜日、この場所でやらせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、これにて令和4年度第2回住吉区防災専門会議を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。お疲れさまでした。